

ぬくもり

第5号

肌のぬくもりある医療
宇佐高田医師会病院



私達は笑顔を大切にします

2006年7月25日発行

〒872-0102 大分県宇佐市大字南宇佐635
TEL.0978-37-2300代 FAX.0978-37-2307
<http://www.utihp.jp/>



基本理念 地域医療への貢献
「肌のぬくもりある医療」の実践

基本方針

- 一、救急医療充実のため、診療連携の強化に努めます。
- 一、高度医療の実施、チーム医療の推進に努めます。
- 一、患者様の立場にたった医療サービスの提供に努めます。
- 一、職員が誇りを持って働ける病院を目指します。

目

次

■ 第一血管造影室紹介	2 p
■ 心臓カテーテル検査について	2 p
■ 部署紹介①外来	3 p
■ 医事統計総括表	3 p
■ 看護週間	4 p
■ 柳ヶ浦高校実習	5 p
■ 医師会会長杯ミニバレーボール大会	5 p
■ 防火訓練	5 p
■ 宇佐市消防署救急隊研修	5 p
■ 栄養課行事食紹介	5 p
■ 委員会活動報告	6 p
■ 研修会報告	7 p
■ 新入職員紹介	7 p
■ 外来担当医一覧	8 p

第一血管造影室紹介

最新鋭の血管造影装置

当院では、心臓カテーテル検査専用血管造影室（第一血管造影室）を増設し、2月末より稼動しております。

心臓疾患に対する心血管造影とカテーテル法による治療を行う専門装置としてドイツ、シーメンス社製フルデジタル血管造影装置「AXIOM Artis dTC」を導入しています。世界中のたくさんの医療機関で採用され、高い評価を得ている最新鋭

装置です。

この血管造影装置は、血管内に細い管（カテーテル）を挿入し、造影剤を注入することで、微細な血管病変（狭窄、閉塞）の診断を可能にします。また、虚血性心疾患（心筋梗塞）の治療、血管をバルンで膨らましスtentを挿入する方法（PCI）への対応ができる装置です。検査を受ける方の被曝低減を十分に考慮したシステムですので安心して検査、治療を受けていただけます。



画質の劣化を防ぐため、フルデジタル化に対応するフラットディテクタを搭載しています。

心臓カテーテル検査について

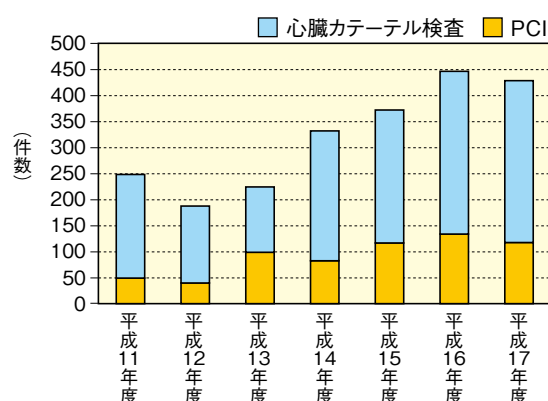
循環器部長 陣林 伯男

当院の第一血管造影室では心臓病に対する検査及び積極的治療を行っており、特に虚血性心臓病に対して威力を発揮しております。平成9年から宇佐高田地区では唯一当院で冠動脈造影、経皮冠動脈インターベンション（カテーテルとよばれる細い管を血管に入れ、それを用いて冠動脈の治療を行う方法です）が行えるようになりました。当科では、原則的に橈骨動脈からカテーテルを挿入しての検査・治療を行っており、患者さんの負担軽減に努めています。検査・治療数は年々増加しており、平成17年度は心臓カテーテル検査428例（うち冠動脈インターベンション118例）でした。また徐脈性不整脈に対する人工心臓ペースメーカー植え込みも行っており、平成17年度は37例のペースメーカー植え込み・入れ替え術を施行しました。

当院では、急患について24時間対応ができる体制をとっておりますので、いつでもご連絡下さい。



■心臓カテーテル検査(含:PCI)



+ 部 署 紹 介

①

外 来

外来看護師長 尾崎 和代

医師会病院は医師会の先生方の紹介型の病院です。消化器内科、循環器科、呼吸器内科、外科の常勤の先生と、毎週火曜日の午後から鶴見病院呼吸器内科の黒田先生の外来、第2第4金曜日の午後から鶴見病院の血液内科の中山先生の外来受診を行っています。

外来看護部門のスタッフは看護師10名（うち日本消化器内視鏡技師含む）です。病院の基本理念である「肌のめくもりある医療」の実践を行うよう努力しています。しかし、救急患者様も多く緊急力テール検査や緊急処置などのため診療が中断してしまうことも多く、待っていただく時間が長くなり大変申し訳なく思っております。

何かお気づきのことがあれば、ご意見下さいますようお願い致します。



外来メディウインドウの紹介



当院では外来待合室の前にメディウインドウを設置しております。

メディウインドウの映像の中で患者様より頂いた写真も映像として流させて頂いております。外来診療前の待ち時間にどうぞお楽しみ下さい。

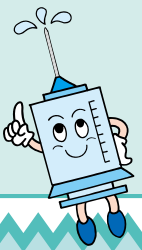
平成18年度（4月～6月）

医事統計総括表

		4 月		5 月		6 月	
		17年度	18年度	17年度	18年度	17年度	18年度
外 来 患 者 延 べ 人 数 (人)		1,792	1,664	1,895	1,892	2,058	1,945
1 日 平 均 入 院 患 者 数 (人)		89.6	82.2	95.8	79.5	97.8	94.4
科 別 内 訳	循 環 器	31.6	22.1	30.9	17.7	37.7	22.6
	消 化 器	18.8	18.2	18.0	18.8	13.7	24.0
	外 科	26.0	28.9	32.6	24.8	32.1	29.9
	呼 吸 器	13.0	13.0	14.1	18.1	14.0	17.9
平 均 在 院 日 数 (日)		18.8	17.6	20.5	16.4	20.8	17.0
病 床 利 用 率 (%)		81.5	74.7	87.1	72.3	88.9	85.8
紹 介 患 者 数 (人)		209	237	281	279	408	393
患 者 紹 介 率 (%)		95.5	85.8	86.6	71.5	79.3	70.3
救 急 車 搬 入 件 数 (件)		59	59	63	35	55	45

看護週間

平成18年5月7日～5月13日



看護の日

毎年、5月12日は『看護の日』、12日を含む週の日曜日～土曜日が『看護週間』とされています。

21世紀の高齢化社会を支えていくために看護の心・ケアの心を誰もが育むことができるようにと1990年に旧厚生省が制定しました。



今年も当院では、「看護の日」のイベントとして1階ロビーにて、血圧・骨密度の測定、AEDの講習会などを実施しました。AEDの講習会では、実際に操作して頂くなど、多くの方に参加して頂きました。



イベントに参加頂いた方々に粗品を持って帰って頂きました。

一日看護師体験

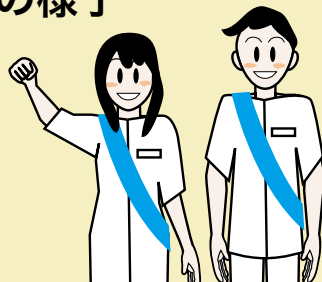
5月8日、宇佐高校3年生12名が、当院を訪れ、看護師の体験をしました。体験を通して、次のような感想が聞かれました。

感想

- ・入院している人は高齢者の方が多く最初はどう接していいかわからなかった。
- ・食事の介助をした時に、「おいしい」といつてにつこり笑って口をあけてくれたのがうれしかった。
- ・大変だけどすごくやりがいのある仕事だし、必要な仕事だと感じた。



5月10日の大分合同新聞に掲載されました 1日看護師体験の様子



看護週間の行事



市場達也君(モ)顔写真
いい」と話

は「初めの経験で、今後市役所など計十力所、高校生五十二人が看護師などの仕事を体験する。

▽宇佐豊後高田県民保健福祉センター宇佐保健福祉部 八日、宇佐市南宇佐の宇佐高田医師会病院で宇佐高校三年生十二人が看護師の仕事を経験した。



看護師の仕事を経験する宇佐高校の生徒たち

医師会
会長杯

ミニバレーボール大会参加!

7月17日(月)かんぼの郷体育館で医師会会長杯ミニバレーボール大会が開催されました。当院からも1チーム参加しました。

柳ヶ浦高校専攻科
実習はじまる

今年も柳ヶ浦高校専攻科の実習の受け入れを行いました。

期間は、4月18日～11月17日までの予定です。6名前後の学生さんが4週ごとに交代で実習します。



防火訓練を行いました

6月27日(火)15:00より防火訓練を実施しました。今回は夜間に3階・4階病棟のそれぞれの談話室からの出火を想定し、夜勤者が模擬患者さんを1階検診センター玄関前まで誘導するという訓練でした。非常放送のマイク自体の性能が悪く、聞きづらいなど、課題が残りましたが、今後も患者様の安全確保のため、努力していきたいと思います。

宇佐市消防署救急隊
救急救命士就業中(前)研修

宇佐市消防署救急隊の救命士による研修(6月5日～6月9日に9名と、6月12日～6月16日に新人の救命士1名が参加)が行われました。この研修を活かし、緊急時に対応できるように努力していきたいと話をしていました。

栄養課行事食紹介

7月7日(金)七夕行事食です。



献立

- ・白飯半分
 - ・フルーツ入り冷しソーメン
 - ・イカソーメン
 - ・炊き合わせ
 - ・あじさい寒
 - ・漬物合わせ
- エネルギー 522Kcal
たんぱく質 17.31g

あじさい寒の作り方 (6～8人前)

<材料・分量>

- ・寒天クック(粉末)1袋 4g
- 又は棒寒天 1本
- ・水 300cc
- ・砂糖 80g
- ・卵白 1ヶ半分40g
- ・ゼリー 60～80g

<栄養価>

- ・エネルギー 74kcal
- ・たんぱく質 0.5g
- ・脂質 0g
- ・炭水化物 18.6g
- ・塩分 0g

■作り方

- ①なべに寒天クックと水を入れて火にかけ、かき混ぜながら2分ほど沸騰させ、溶かす。(寒天クックは水で戻さなくてすぐに使えます。棒寒天の場合は分量の水に小さくちぎってつけて戻しておいたものを火にかけて煮溶かす)
- ②砂糖を入れて溶かし、火を止める・・・そのまま置いて荒熱を取る(少し冷ます)。
- ③乾いたボールに卵白を入れて固く泡立てる。
- ④泡立てた卵白の中に②の少し冷ました寒天液を少しずつ入れながら混ぜ合わせる。
- ⑤すぐに固まるので、先にいろいろな色のゼリー(市販のもの)を切って置いたものを半分量入れてザックリと混ぜる。
- ⑥パットに流し入れ、その上に半量残しておいたゼリーを彩り良く散らし、軽く押さえなじませる。
- ⑦冷蔵庫で冷し固めてから等分に切り分ける。



医療安全管理対策委員会活動報告

副院長 外科部長 柏木 孝仁

I はじめに

平成11年の大学病院での患者誤認事故以来、毎日のように医療ミスの報道があり、医療界に対する社会的信頼の低下が問題となっている。

平成14年に医療安全管理体制の整備が義務付けられ、当院も委員会を発足し、暗中模索の中で活動を行ってきた。

今回、平成17年度の活動及びインシデントの集計・分析を通し、医療安全の必要性を再認識することを目的に報告する。

II 考察

①インシデント件数…インシデント件数217件・発見6件、レポート提出率は増加している。

職種別で提出の差が大きい⇒今後の検討課題

②インシデントの要因第1位…確認不足

「確認する」という最も基本的な約束事をないがしろにしたときに起こるミスと考えられる。

常に「1人の患者様」の為に、安心・安楽を提供する姿勢が、確認不足によるインシデントの減少につながると思われる。

III おわりに

医療事故は、患者様やご家族の方々だけでなく医療の現場で働く全ての人を不幸にする。事故を防ぐためには、我々一人ひとりが「患者様の安全」のために何ができるのかを考え、責任ある行動をしなければならない。

また、職員全員でリスクマネジメントに取り組み医療の質を高めていくことを期待する。

褥瘡対策委員会活動報告

3階病棟 看護師長 甲原 妙子

褥瘡対策に対して、今年4月の診療報酬改定で未実施減算が消えたことは、この対策が病院として当然の取り組みと認識されたことにほかならない。

褥瘡対策の第1は発生の予防・第2に治療である。このことから全入院時患者様に対して日常生活自立度の評価を行いランクに応じた対策をおこなってきた。しかし煩雑化する業務の中で職員の周知徹底は難しく、17年度は褥瘡対策の更なる理解と推進・委員会機能の充実を課題に取り組んだ。平成17年4月～平成18年3月までの褥瘡患者数46人（昨年29人）当院発症24人（昨年20人）であった。対策・対象者は昨年度と変りないが、褥瘡の持込みが多くなってきている。

又、当院発症の24人中5人は発赤のみの初期褥瘡であった。今年度はマニュアル変更も進み、病院のIT化を考慮したパス方式に記録用紙の変更を行った。褥瘡危険レベル評価をOHスケールとし、点数により看護計画やマットレスの選択を行う。又、褥瘡評価（DESIGN）も正式表記に変え評価を反映した治療を行っていききたい。しかし、当委員会の対策や看護だけで発生予防することが、困難なケースもあり今後NSTによる介入も期待される。

院内感染対策委員会活動報告

検診センター 磯村 信一

I はじめに

院内感染とは、入院中の患者様が病院内で入院の原因になった病気とは別に新たに患った感染症や、医療従事者が病院内において感染した感染症です。人から人または医療器具などを媒介として感染し、特に、免疫力の低下した患者様や新生児、老人などは通常の病原微生物だけでなく、感染力の弱い細菌による院内感染（日和見感染）を起こす場合があります。

さらに、日和見菌のなかには耐性菌といって、抗生物質が効かない、あるいは効きにくくなるMRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）などによる院内感染が社会問題となっています。

II 活動内容（今後の新規業務も含む）

- ①MRSA感染情報及び病棟感染情報レポートの作成（毎月）
- ②『院内感染対策委員会からのお知らせ』の発行
- ③各種マニュアルの見直し及び新規作成
- ④標準予防策の職員への周知徹底の実施（特に手洗いを中心に）
- ⑤SARS、新型インフルエンザの感染対策シュミレーションの実施
- ⑥三活、手袋、MRSA、針刺し事故、感染症発生報告書、等の統計
- ⑦H18年度院内感染対策委員会の指針
- ⑧院内感染対策チーム（ICT）の結成を目指す（H18年4月）

III おわりに

治療を目的として入院した患者様が、入院したことにより新たな感染を受けることはできるかぎり避けなければなりません。感染に対する防御機能の低下している重症患者様においては、特にこの点に留意する必要があります。

職員が安心して働けるように、また患者様が心配なく療養できるように、感染防止対策を講ずることは、医学的にも、また病院管理上や職員の管理上にも非常に重要です。



学会・研修会等報告

●学会発表

5月12日（金）
第18回日本肝胆膵外科学会（東京）
「中部胆管癌との鑑別に難渋した良性胆道狭窄の1例」
外科医師 中村 理恵子

5月19日（金）
第43回九州外科学会（福岡市）
「粘液性嚢胞腫瘍との鑑別に難渋した
胃癌局所再発の1例」
外科医師 中村 理恵子

6月3日（土）
第87回日本消化器病学会九州支部例会（佐賀市）
「遺伝性球状赤血球症を原因とした胆石症の2例」
消化器科医師 織田 麻奈美

●栄養指導

管理栄養士 川野 富貴子

・生活習慣病予防教室

6月8日（木）豊後高田市
健康交流センター 花いろ
6月29日（木）真玉保健センター

・健診事後指導

生活習慣病予防のための栄養学習と個別健康相談

5月10日（水）臼野出張所
5月17日（水）大村公民館
5月18日（木）塩屋公民館
5月19日（金）真玉保健センター
5月24日（水）真玉保健センター
5月25日（木）西浜公民館
5月26日（金）香々地保健センター
6月19日（月）真玉保健センター
7月9日（日）香々地保健センター

●研修会

・記録小委員会の活動報告
5月19日（金）
17：30より大研修室にて
発表者 3階病棟 辻副看護師長



・第2回 職員研修会
7月13日（木）
17：30より大研修室にて

テーマ

1. 「きちんとお話しします。ジェネリック医薬品」
講師 大洋薬品工業株式会社
研究開発部 次長 牛王 恭彦
2. 医療連携室 活動報告
社会福祉士 吉田 茂樹
3. NST委員会 準備委員会発足にあたっての報告
看護部委員 小野 康佳
4. 情報システム委員会
準備委員会発足にあたっての報告
事務部委員 五所 光之
5. 医療安全対策委員会 平成17年度活動報告
看護部実務委員 岡崎 豊子
6. 院内感染対策委員会 平成17年度活動報告
実務委員 磯村 信一
7. 褥瘡対策委員会 平成17年度活動報告
看護部委員 甲原 妙子

新入職員紹介

よろしく
お願いいたします。



み づ の ま さ ひ こ
三重野 斉

- ① H18・5・1
- ② 呼吸器部長
- ③ 2年前まで、3年間お世話になっておりました。今回新たな気持ちで頑張っていきたいと思っております。宜しくお願いします。
- ④ 特にないです。



お だ ま な み
織田 麻奈美

- ① H18・6・1
- ② 消化器内科 医師
- ③ よろしくお願ひします。
- ④ 磯あそび



こ ば や し み さ こ
小林 美奈

- ① H18・6・1
- ② 栄養課
- ③ 1日も早く仕事に慣れるよう、精一杯頑張ります。
- ④ 洋裁、美術館めぐり



①入職日 ②所属 ③モットー（一言） ④趣味

外来担当医師一覧表

平成18年8月1日現在



時間帯	科 別	月	火	水	木	金	土
午 前	消 化 器	織田麻奈美	中島 仁典	中嶋 宏	中島 仁典	中嶋 宏	中島 仁典
	内 視 鏡	中嶋 宏	中嶋 宏	織田麻奈美	織田麻奈美	織田麻奈美	(再 来)
	循 環 器	春田 大輔	陣林 伯男	春田 大輔	陣林 伯男 ペースメーカー	陣林 伯男	—
	外 科	高松 祐治	柏木 孝仁	田村 徹郎	西中 秀和	柏木 孝仁	—
	呼 吸 器	—	三重野 斉	—	三重野 斉	—	—
午 後	呼 吸 器	—	黒田 芳信	—	—	—	—
	血 液	—	—	—	—	中山 俊之 第2・第4	—

○外来受付時間

午前 8:30 ~ 11:00
 (午後の特殊外来は 午後 3:00まで受付)
 ただし、急患はこの限りではありません。
 ※当病院は、原則として紹介状が必要です。

○診療時間

午前 9:00 ~ 12:00
 午後 2:00 ~ 5:00

○休診日

土曜日午後、日曜日、祝祭日、年末年始(12/30~1/3)

■呼吸器科

木野内林太郎医師 (H18・4・30退任)
 部 長 三重野 斉医師 (H18・5・1着任)

■消化器科

綿田 雅秀医師 (H18・5・31退任)
 織田 麻奈美医師 (H18・6・1着任)

■外科

中村 理恵子医師 (H18・7・31退任)

部 長 西中 秀和医師 (H18・8・1着任)

患者様の権利

- 一、患者様は、個人としての尊厳が守られ、だれでも良質な医療を平等に受ける権利があります。
- 二、患者様は、医療に関して十分な説明と情報の提供を受ける権利があります。
- 三、患者様は、医療に関して十分な説明と情報の提供を受けた上で、自らの意思で治療の方法を選択する権利があります。
- 四、患者様の個人情報、保護される権利があります。

患者様の責務

- 一、患者様は、ご自身の健康に関する情報を提供する責務があります。
- 二、患者様は、ご自身が受ける医療に関して納得できるような質問する責務があります。
- 三、患者様は、他の患者様の療養生活に支障を与えないよう配慮する責務があります。



編集後記

毎日うっとうしい天気が続いております。
 そんな折、ある患者様より突然「よかったら見てください」とCDをいただきました。ご自分で撮影されたとのこと、四季折々のすばらしい風景がたくさん入ったものでした。
 日本にこんなところがあるのか～。とため息が出るほどすばらしく、また心癒される思いがしました。より多くの方に見ていただきたく、広報誌だけでなく外来にあるメディウインドウにも掲載させていただくことにしました。
 本当にありがとうございました。広報委員会